

令和6年、新しい年を迎えて

会長 堀口 智子

みなさま、令和6年をどのようにお迎えになったでしょうか？ 元日に起きた能登半島地震には心が震えました。お亡くなりになった方々のご冥福と被災地の復旧、そして被災された方々が一日でも早く日常生活に戻れますことを心からお祈り申し上げます。災害はこちらの都合を考慮してくれるわけではないのだと、当たり前のことを痛感し、日々の生活の中で出来そうな備えをしていく大切さを肝に命じました。災害についてだけではなく、想定外を少なくするために必要なことをみなで考え、制度や支援の充実に向け働きかけていくのは、親の会の重要な活動です。まずは、一人ひとりにとって大切なことを出し合い、共有していきたいと思っておりますので、どうぞご理解・ご協力をお願いします。

4月からは、次期渋谷区障がい福祉推進計画に沿った取り組みが始まります。国や都の指針等を踏まえつつ、渋谷区の実情に対応した計画の策定に多くの方々の力が注がれてきました。「自分らしく暮らせるまち」「自分が望む暮らし」といったキーワードの実現には、障がいのある方ご本人を中心にし、その気持ちや意思を大切にされた支援の展開が必須と考えます。知的障がい・発達障がいのある方は、体験・経験の機会に恵まれず、選択肢が乏しくなりがちに上はその意思を汲み取ることが難しいです。本人に実体験してもらい、選択肢を増やしていく試みを積み上げていく必要があります。体験・経験を積むことは、想定外を少なくすることにもつながります。地域で暮らすということは、本人や家族が地域で当たり前のように生活し、地域の方々とつながる機会や場があり、何かあれば共に支え合えるということではないでしょうか。一人ひとりが「自分らしく暮らせるまち」「自分が望む暮らし」を思い描くことが出来て、その実現へ歩む「しぶや」でありたいです。徐々に楽しい集いも復活してきました。地域づくりへの取り組みに親の会も参加し、つながりを広げていきましょう。

渋谷区福祉部障がい者福祉課
課長 齋藤 貢司

渋谷区手をつなぐ親の会の皆様には、日頃より障がい福祉施策にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。今年度は新型コロナウイルス感染症も5類となり、区立施設において「はあとぴあ祭」や「つばさまつり」、「くるるアートくるっと見学会」などが開催されるとともに、渋谷区障害者団体連合運動会をはじめ、「どきどきときめき展」も盛大に開催され、障がいのある方々の活動も以前の状況に戻ってきました。今後、さらに皆様の日常が充実したものとなるよう、引き続き区全体で連携を図りつつ、取り組んでまいります。

区では今年度、渋谷区自立支援協議会のご協力を得て、「誰もが自分らしく暮らせるまち しぶや」を基本理念として、地域のなかで安心して健やかな日常生活が送れるよう、様々な施策を盛り込み、「渋谷区障がい福祉推進計画 2024~2026年度」の策定に向けて準備を進めてまいりました。個別施策では、手をつなぐ親の会よりご要望をいただいた、緊急時対応の充実として、コーディネート機能を備えた「365日24時間の緊急時相談窓口の設置」なども盛り込んでいます。次年度以降は、計画を着実に進め、障がい福祉の充実にも努めてまいります。

また、区では今年度より「二次避難所対策担当課長」を福祉部内に配置し、災害時に配慮が必要な方への支援の充実にも取り組んでいます。障がいのある方々の災害時の避難場所や支援体制の確保は喫緊の課題となっています。今後、課題解決に向け、渋谷区障害者団体連合会の協力を得ながら、区内の事業所とも協議してまいります。災害時を含め、地域における障がいへの理解促進には、引き続き堀口会長をはじめとして、渋谷区手をつなぐ親の会の皆様にご協力賜りますようお願い申し上げます。

結びとなりますが、渋谷区手をつなぐ親の会の益々のご発展と皆様のご健勝をお祈り申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

10月7日(土)、爽やかな青空の下、待望のバスハイクが復活しました。

密を避け2組に分けた後発の私達のコースは羽田空港～アクアパーク品川です。



久々の再会にたくさんの笑顔と笑い声。車中ではマイクが回り、「旅の思い出や飛行機で行きたい所は？」で盛り上がりました。



リニューアルした空港は、とてもオシャレで活気がありました。デッキに行くと強い風でしたが、たくさんの飛行機の離発着を眺めているとワクワクしてきました。娘と飛行機に乗って遠くへ行きたい!!という気持ちが甦りました。お楽しみのランチは空港内のホテル。広いレストランでゆっくりいただいたハンバーグステーキは、おいしいと皆に好評でした。



次のアクアパーク品川は、子供連れや若者達で混んでいました。目玉のイルカショーの時間が迫っていたので、まずプールへ。イルカ達の愛らしい演技を見学して大拍手!それから水槽のトンネルを歩いたり、魚達に癒されました。



今回の日帰り旅行も無事に終了。長い間、全面的に協力して下さる多くのボランティアの方々があってこそです。プルデンシャルさんの若手のデビューも嬉しいことです。

渋谷はボランティアさんが大勢で羨ましいと言われた事がありました。そんな幸せを改めて感じました。皆様ありがとうございます。

(朝河 則子)



はあとびあ祭に参加して

10月21日(土)に、はあとびあ原宿にて開催された、はあとびあ祭に参加しました。お天気にも恵まれ、コロナ禍以来4年ぶりの開催ということもあり、会場は賑わっていました。

今回で14回目となる、はあとびあ祭。渋谷区内の障がい者団体が出店していて、素敵な作品や美味しそうなお菓子が販売されていました。色々とお買い物を楽しんだり、たくさんの方とお話させていただいたり、楽しい日を過ごすことができました。



知的障がい、発達障がいなどの理解啓発を目的としたキャラバン隊『しふはち隊』の疑似体験にも多くの方が参加して下さり、障がい特性や生きづらさを少しでも知っていただく良い機会になったことを嬉しく思いました。

改めて、多くの皆さんに知っていただく、理解していただく、という啓発活動の大事さを実感しました。



(杉山 千夏子)



成人部主催のグループホーム見学会に行ってきました！

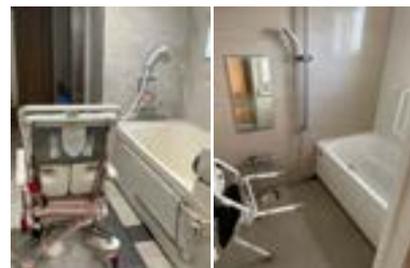
12月22日(金)、豊島区にある地域生活支援拠点「niima(ニーマ)」の見学会に参加しました。東京都手をつなぐ育成会が運営しており、相談支援事業所、グループホーム、短期入所が入っています。短期入所は児童から成人までの3障害の方が利用でき、利用する方に合わせて室内のレイアウトを変えるなど快適に過ごせるように工夫されていました。その他、地域交流スペースや多目的スペースもあり、地域に開かれた場所になっています。



グループホームは定員15名で、現在、男性7名と女性8名の15名が共同生活を送っています。障害支援区分5～6の重度の方が暮らしていて、他のグループホームよりも支援が手厚く感じられました。身体障害の方も住んでいるので、全介助用のお風呂や着座で入れるお風呂もあり、



必要な支援に合わせて入浴できるように配慮されていました。また、ベッドの下にセンサーが設置され、タブレット端末などのICT機



器で呼吸・心拍・睡眠をデータ化し、リアルタイムで確認できるため、何かあればすぐに駆け付けることができます。さらに、そのデータを基に医療との連携もされているそうです。これからのグループホームを考えた時、ICT機器が活用されることで、人手不足の解消や業務負担の軽減なども期待でき、介護現場でますますICT化が進むのだろうと感じました。

見学会を通し、障害が重度の娘が地域で自分らしく暮らせるよう、渋谷区にも重度のグループホームが出来る事を切に願っています。
(道井 美樹)



第38回 かがやこう 愛と希望の運動会

令和5年11月23日(木・祝)、第38回連合運動会が渋谷区スポーツセンター大体育館で開催されました。今回、息子の通所先の幡ヶ谷のぞみ作業所から参加しました。昨年度同様に感染対策のため午前と午後に分かれて行われ、午前組は知的部・精神部、午後組は身体部・親



の会・友好団体(幡ヶ谷のぞみ作業所、生活実習所つばさ)でした。午後の部のオープニングアトラクションでは、幡ヶ谷のぞみ作業所の利用者も参加している笹塚太鼓



の和太鼓の演奏が披露され、盛り上がっていました。競技は、パン取り競争、車いす競技、大玉ころがし、玉入れ、リレーと次々に行われ、あっという間の2時間でした。皆さん楽しそうに参加され、たくさんのお土産も頂き、親子共々楽しい時を過ごせました。この運動会を実行委員会を始め、

多くの方々の協力で開催していただき、本当に感謝しております。ありがとうございました



(永田 文子)



鼓笛のパレードも復活！ 渋谷フェスティバルに参加して

11月4日、5日に「第46回渋谷区くみの広場 区民ふるさと渋谷フェスティバル」に参加しました。コロナ禍が明けて



2回目の現地開催でしたが、今年は小・中学生の鼓笛のパレードが復活して嬉しかったです。

親の会は例年通りバザーと障がい理解啓発活動を行いました。バザーは昨年同様、プルデンシャル生命保険会社の方々が中心になって、リサイクル品の販売をしてくださいました。バザーを出店する団体が減ったためか、初日は販売開始前からお客さんが殺到して、身動きがとれない程でした。保安官のコスプレをしてきてくれたプルデンシャルの社員の方もいて、とても盛り上げてくださいました。2日目は、来場者数が半減したようで、バザーも初日の半分程のお客さんでした。それでも終了間近には100円で詰め放題をしたり、プルデンシャルの方々が一生懸命売ってくださったので、思ったより品物が残らずよかったです。売上げも上々でした。



障がい理解啓発活動の方は、リーフレットの配布、イギリスの自閉症協会作成のビデオを編集した動画の視聴や自閉症特有の「シングルフォーカス」や知的・発達障がい者に見られる「手先の不器用さ」を疑似体験してもらいました。少しずつですが、障がい理解が広がっていくといいと思います。準備は大変でしたが、2日間とも天気も良く、色々な方々とお話できて、とても楽しかったです。多くの方々に協力いただき本当にありがとうございました。



(齊藤 緑)

東京都育成会大会大研修会

10月6日(金)、東京都育成会大研修会が久しぶりの会場開催で行われました。

「地域生活支援拠点への期待」をテーマにしたシンポジウムに参加し、事業所の主に緊急時の取り組みや課題、役割、親の立場からの願いなど、それぞれの視点からの話を聞くことができました。特に親の立場からの話には共感できることが多く、本人と家族が緊急時に備えて心得るべきことを改めて考えさせられました。また、緊急時対応に際して、相談支援事業者との事前の話し合いや、連携が大切だと感じました。支援をつなぐ役割分担や体制も参考になり、自分たちの地域はどうか…という視点になれました。

本人が地域で安心して過ごせる場として、地域生活支援拠点の今後の整備に期待したいです。また、将来に備えて、日頃から支援機関とのつながりを高め、短期入所や移動支援等を利用して経験を重ねるなど、今できることに取り組んでいきたいと思いました。

(佐々木 千種)



「第31回どきどきときめき展」が、12月14日(木)～22日(金)、渋谷区文化総合センター大和田・ギャラリー大和田で開催されました。渋谷区障害者団体連合会の各団体、個人の個性あふれる作品が所狭しと展示されていました。

ネットでの展示もされておりますので、上のQRコードから皆さんの個性あふれる力作をお楽しみください。(林 多恵)



「プリズム」が新しくなりました!!

誌面サイズもA4となり、全ページがフルカラー！写真もたくさんアップしますのでお楽しみに♪
新しくなった「プリズム」へのご意見・感想をぜひお聞かせください

編集後記

たのしさが つながる 良い年 になりますように！
コロナを経て新たな年に！今年もよろしくお祈りします。(広報部一同)